

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和6年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 山岸 史子

令和6年6月28日 発行



道具の正しい使い方

副校長 山田 尚人

ある日の2年生図工の授業でのことです。この日の学習は「ぼかしあそび」。主な活動は、①画用紙を好きな形を描き、はさみで切り取って型紙を作る。②外枠をクレヨンで塗る。③別の画用紙に型紙を置き、クレヨン部分をペーパーでこすり色を移す。というものでした。先生の説明にしっかりと耳を傾け、目をきらきらと輝かせながら意欲的に表現活動に取り組む子どもたちの様子に感心しながら授業を観ていました。さらに感心したのは、子どもたちにはさみの使い方や使う際のルールがしっかりと身に付いていたことです。先生の指示があるまで誰一人として勝手に触る子はいません。使い方とても上手です。刃先が自分や友達の方を向かないように、画用紙を動かしながら型紙を切り取っていきます。きっと、子どもたちは初めてはさみを触った日から、この日に至るまで、お家の方や保育園、幼稚園の先生方など、いろいろな人たちから、はさみの危険性や扱い方について繰り返し教わってきたのでしょう。子どもたちがはさみを「便利な道具」として正しく使うことができているのは、そのおかげと言えるのかもしれません。

はさみは、学校でも家の中でも目にすることのできる身近な道具と言えます。しかし、その身近な道具も、使い方次第では、自分や他の誰かを傷つける「恐ろしい凶器」となってしまうこともあります。そのため、低学年では担任がはさみを預かり、使うときだけ子どもたちに配っている学校も少なくありません。

「子どもにとって危険なものは、初めから与えなければいい！」確かにそれもひとつの考え方です。しかし、私たち大人にとって大切なことは、危険なものを目の前から排除することではなく、子どもたちに、道具としての危険性や正しい使い方をしっかりと伝えていくことなのではないでしょうか。伝えたところで、時には誤った使い方をしてしまうこともあるかもしれません。学習したことを一度で身に付けられる子ばかりではありません。漢字や計算は時に何度も間違えを繰り返しながら覚えていきます。だからこそ私たちは、子どもたちが分かるまで、何度でも、繰り返し伝えていかなければならないのです。

さて、私が第七小学校の子どもたちと時間を過ごす中で、「もっと大切に使ってほしい」と強く願う道具があります。それは「言葉」という道具です。

「言葉」は、自分の気持ちを相手に伝えることができる最も身近であり有効なコミュニケーションツールと言えます。身近なものゆえに、毎日何気なく使っている「言葉」。言葉を使うことで、自分を表現することができます。落ち込んでいる友達を励ますこともできます。しかし、その使い方次第では、誰かを簡単に傷付けてしまうこともできるのです。子どもたちの様子を見てみると、「言葉」という素晴らしい道具を、有効に使えていないと感じる場面に出会うこともあります。友達にされたこと、言われたことに対して抱く様々な思い。「～しないでほしい」「もっとこうしてほしい」という気持ちを、「うざい」「ムカつく」のひと言で表してしまふ。時として、言葉よりも先に手や足が出てしまうことも。語彙がまだ豊かではない子どもたちにとって、友達に自分の気持ちをしっかりと言葉で伝えることは簡単なことではないのかもしれません。だからこそ、私たち大人が、その場面、場面で「言葉」の使い方を教えていくことが大切なのです。「こんな時はこう言うといいよ」「こんな風に言えば伝わるんじゃないかな」はさみの使い方、漢字の書き方や計算の仕方と同じように、何度も何度も繰り返し教えていくことで、子どもたちの言葉は磨かれ、使い方の幅を広げていくのです。

私たち大人は、子どもたちにとってのよい手本でありたいと願います。だからこそ、私たち自身が「言葉」を大切にしなければなりません。そして何よりも、子どもたちと多くの言葉を交し、心を通わせ、言葉によるコミュニケーションの素晴らしさを伝えていくことが必要なのではないでしょうか。もうすぐ夏休みです。普段よりもお子さんと一緒に過ごす時間が増えるご家庭もあると思います。これまで以上に子どもたちの言葉に耳と気持ちを傾けつつ、言葉の大切さ、正しい言葉の使い方について、一緒に考える時間を設けてみてはいかがでしょうか。